佐藤清明資料保存会会報

No.１（創刊号）

博物学者 佐藤清明（1905-1998）

佐藤清明資料保存会

里庄町立図書館

2018.10.14.

No.1（創刊号）　もくじ

１．あいさつ　会長　加藤 泰久
２．巻頭論考　佐藤清明と民俗学　顧問　木下　浩
３．佐藤清明先生の想い出　理事　安原 清隆
４．アーカイブス１
５．佐藤清明交遊録　第１話かくして木之子島は残った
　　・・・佐藤清明と高橋小太郎氏の物語
６．佐藤清明資料保存会規約
７．佐藤清明資料保存会役員等名簿
８．平成３０年度佐藤清明資料保存会事業計画
９．キクザクラ基金
８．佐藤清明顕彰特設サイト・佐藤清明巡回展の開催等
９．清明さんを広く知っていただくために
１０．編集後記

表紙写真：第六高等学校理科助手時代の佐藤清明（20 代）

あ い さ つ

里庄町には、仁科芳雄博士と小川郷太郎氏という２人偉人がおります。仁科芳雄博士は、東京帝国大学を卒業後、ヨーロッパに留学し、世界最先端の原子物理学の研究に取り組みました。帰国後は、理化学研究所主任研究員となり、研究の第一線で活躍するとともに、後のノーベル賞受賞者、湯川秀樹や朝永辰一郎ら後進の指導にも尽力されました。その功績により、「原子物理学の父」と呼ばれ、今なお称えられています。そして、里庄町には仁科芳雄博士を顕彰する科学教育施設として仁科会館があり、町内外の人々に親しまれています。

小川郷太郎氏は、東京帝国大学を卒業して大蔵省に入省し、京都帝国大学経済学部で指導に当たりました。その後、ヨーロッパ各地で６年間遊学し、帰国後は、京都帝国大学教授、学部長などを務め「財政学の父」と呼ばれています。後に、京都帝国大学を辞職して京都を離れ、拓殖大学学監を務めました。大正６年には、衆議院議員に当選し大蔵政務次官、商工大臣、鉄道大臣を歴任しました。鉄道大臣時には、昭和１５年関門隧道貫通を成し遂げ、従３位勲二等に叙せられるなど、鉄道事業で活躍されました。小川郷太郎氏の功績を後世の人々に知ってもらうため、中央公園の一角に「小川郷太郎の碑」があります。

そして、里庄町には、今まであまり知られていない偉人、佐藤清明氏がいます。その佐藤清明氏の業績を顕彰し、資料の収集、整備、保存、活用するとともに、次代を担う青少年の健全な育成や地域文化活動、教育事業を推進することを目的とした佐藤清明資料保存会を結成することができたことは、大変意義深いものがあります。この会の準備・結成にあたりましては、里庄歴史勉強会を中心とした有志の皆様のご尽力によるところが大きいと感じています。心より感謝申し上げます。そして、この会が一過性のものに終わるのではなく、計画的、継続的に活動していけますよう、会員の皆様のご協力・ご支援を、よろしくお願いいたします。また、この会の成果が、広く町内外の皆様に知ってもらい、活用してもらえるよう活動してもらいたいと考えています。さらに、この会の主旨が生かされ、次代を担う若い人達にも引き継がれることを願っています。

平成３０年１０月

佐藤清明資料保存会会長
里庄町長　加藤 泰久

巻頭論考

佐藤清明と民俗学

顧問　木下　浩

明治 38 年（1905）に生まれ，平成 10 年（1998）に亡くなった佐藤清明は，数々の研究に携わった期間が長い研究者といえる。その長い研究生活の中で民俗学と呼べる分野に携わった期間は戦前のわずか6年あまりで，決して長い期間ではない。しかし，その 6 年間はのちの彼の研究生活に大きな影響を及ぼしている。本稿では，その佐藤と民俗学との関わりについて見ていきたい。

佐藤の詳しい経歴は現在研究が進められているところであるが，今の段階で判明している民俗学との関わりは昭和 4 年（1929），佐藤が 25 歳のときに『岡山文化資料』に掲載された「植物の方言と訛語」からであろう。『岡山文化資料』は岡山の習俗や方言，伝承などを集めた雑誌で，昭和 3 年に桂又三郎や島村知章らが中心となって発刊された。この『岡山文化資料』こそが岡山における民俗学の発祥である。佐藤はその第 5 号（昭和 4 年）に初めて「植物の方言と訛語」という論考を発表している。佐藤がどういういきさつで『岡山文化資料』と関わりを持ったのかについては，論考の序に「桂又三郎氏の御命令に依り…」と記載してあることから，桂と佐藤との交流からの関わりであることと思われる。いずれにしてもこの論考により，のちの佐藤の中心的研究課題となる植物について方言という方法でアプローチしている。

以降も佐藤は積極的に『岡山文化資料』に論考を発表していく。昭和 6 年，中心人物の一人であった島村の突然の死去と桂の体調不良により『岡山文化資料』は廃刊となるが，その廃刊の辞に佐藤は桂とともに名前を連ねている。論考の発表の回数を重ね，関係者との交流を深めていき，次第に重要な地位を占めていったと考えられる。

さらに，この『岡山文化資料』に初掲載され，民俗学の研究が本格化した昭和 4 年第 5 号で，佐藤に大きな影響を与えた出会いがあった。その出会いの相手が日本民俗学の祖柳田国男である。佐藤が桂の命により論考を発表した同じ号に，柳田国男が「唾を」という論考を寄稿し，唾の地方における方言について述べた。同じ雑誌に掲載され，同じ方言という分野で執筆していることから，佐藤はもちろん，柳田もお互いの論考を読んだことは想像に難くない。そこから何らかのやりとりがあり，柳田と佐藤の個人的な交流が始まったと思われる。実際，『蝸牛考』初版（昭和 5 年 7 月）の序文冒頭に，

「前年東條氏の試みられた静岡県各村の方言調べ，又は近頃岡山県に於て，島村知章君佐藤清明君等の集めて居られる動植物名彙などを見ると，言葉が相隣する村と村との間にも，なほ著しい異同を示す例が，日本では決して珍らしくないといふことがわかる。」

と述べ，島村とともに個人名を挙げてその活動を認めている。ちなみに『蝸牛考』は柳田の提唱した方言周圏論の初典拠の著書であり，佐藤の方言収集にも大きな影響を与えたものと推察できる。

佐藤は『岡山文化資料』第 5 号に初掲載ののち，主に岡山県の植物の方言と俗習についての論考を発表していくが，第 2 巻 5 号（昭和 5 年 5 月）で「岡山県に於ける「イタドリ」の方言分布論（予報）」を発表する。これは柳田が発表したイタドリの方言の研究に，佐藤が岡山県の事例を追加する形でまとめたも

のである。これは柳田との研究上での深い交流を表すものであり，序文にも以下のように述べている。

「会々斯学の先輩柳田國男氏から「方言の小研究、三、虎杖及び土筆」の別刷を載き、深き興味を以て再読し、益々方言研究の神秘にうたれ、威大なる刺戟を受けたのである。」

また柳田も，佐藤のこの研究に対し，昭和6年の「西はどっち」(昭和23年『西は何方』所収）に

「虎杖といふ植物には，イタドリとタヂヒと，サイタツマといふ三つの古語があることを，夙く「民族」に私が書いてから後に、佐藤清明君は岡山県附近の地方名を詳しく調査せられたが，その中にタジナ・サジナ・ダイジ・ダンジなどなど，互ひに他系の語の影響によって半分以下の変化を受けたものが，幾つと無く発見せられたのである。」
と述べ，評価している。

柳田から「方言研究の神秘にうたれ、威大なる刺戟を受けた」佐藤は，このイタドリの方言集以降，岡山県の方言収集から全国の方言収集へと変わっていく。そこに柳田からの直接の指示があったかどうかについては不明だが，精力的に全国の方言を集め，全国版方言集としてまとめていった。現時点で確認される１５点の全国版方言集を以下に示すが，紙幅の関係で題名と発行年だけを掲載する。

① 「蟻地獄全国方言集「予報」」(S5)
② 「全国ヂヤンケン称呼集「予報」」(S5)
③ 「カマキリ方言集成」(S6)
④ 「ヂャンケン方言集」(S6)
⑤ 「全国馬鈴薯方言集「予報」」(S6)
⑥ 「全国片足飛び方言集「予報」」(S6)
⑦ 「ハコベ方言集」(S6)
⑧ 「全国メダカ方言語彙」(S6)
⑨ 「全国おたまじゃくし方言集「予報」」(S6)
⑩ 「全国蟷螂方言明彙」(S7)
⑪ 「全国蛙方言集」(S7)
⑫ 「ヒキガヘルの方言」(S9)
⑬ 「吃逆の民俗的研究」(S9)
⑭ 『現行全国妖怪辞典』(S10)
⑮ 「全国菫方言集」(S10)

１５点の全国版方言集のうち，佐藤の専門分野である植物の方言集は馬鈴薯・ハコベ・スミレの３点，同じく博物学としての動物系の方言集はカマキリ・蟻地獄・メダカ・オタマジャクシ・カエルなど７点，残りの５点はジャンケン・片足跳び・シャックリ（吃逆），そして妖怪と多岐にわたる。博物学者としての動植物の方言はメダカやカマキリ，ハコベといったよく知られる生物から，蟻地獄のようなマニアックなものまで幅広い。

また，動植物以外の方言では庶民の生活の中のジャンケンや片足跳び，シャックリと伝承として残る妖怪とまさに民俗学の分野における方言収集といえる。佐藤の方言収集のテーマがどのように与えられたかについては不明であるが，この時点で佐藤は民俗学の研究にも関心を持ち，民俗の一事象を方言という民俗学の一つのアプローチの方法でまとめていたと言うことになる。

佐藤の全国版方言集については，まだまだその全貌が明らかになっておらず，どのように方言を収集したのか，誰から収集したのかなど課題も山積である。その中で，方言集の編集における柳田との関係性についてみてみると，以下の３つのタイプに分類することができ，非常に興味深い。

一つめは既に述べた岡山におけるイタドリの方言集のタイプで，これは柳田の先の著作から引用したり佐藤が後から付け加えたりしたもので，これをタイプＡとする。全国版方言集の中でも③の「カマキリ方言集成」は「柳田先生の論文からカードを作って，こ

れを五十音順に並べ，その間に私の集めたものを挿入した」とあり，タイプＡに当たる。また，⑥「全国片足飛び方言集「予報」」では，「取り敢ず私の用紙の第１号から第８８６号までを整理して発表する。地名の如きも或る事情から郡市名までに止めた。柳田国男先生の論文に現れたる語彙おも転用して包含することを許して戴いた。」とある。

次にタイプＢといえるものは，方言の集成は佐藤が行うが，その段階で柳田から方言のデータの提供を受け，それを入れてまとめるという形である。例えば①「蟻地獄全国方言集「予報」」には，「私のカードであって，ヤは柳田国男氏，スは杉山正世氏の手記より抜くことを許して戴いた」とあり，柳田の許可を得て，もしかすると柳田からの積極的なアプローチがあったかもしれないが，佐藤がまとめるという形である。また，⑩「全国蟷螂方言明彙」ではもっと具体的にそのいきさつを述べている。「私の用紙の第１号より第１２０８号までの整理。柳田国男氏の苦心蒐集せられたる方言用紙をも借覧し，且つ転用することを許された。」とある。

そして最後がタイプＣで，これは柳田からの引用やデータの借用なく，全て佐藤自身が集めたデータで編集された方言集である。例えば，⑨「全国おたまじゃくし方言集「予報」」では，「今回は私の方言票の第１号から第１０３８号までの整理」とあり，佐藤の方言票からの編集であることが分かる。また，⑭『現行全国妖怪辞典』では，「折に触れて集めた妖怪の方言が三百程になった」「全部私の直接カードで集したもののみである」と述べ，佐藤が直接集めたカードのみということを強調している。

柳田の名前が出ないことに対しては，昭和５年 12 月 16 日付佐藤清明宛柳田国男書簡（佐藤公康氏所蔵）には，「カマキリ等方言ハ其中ニ御掲載被下度　小生の名ハ御列記に及び不申候」とあり，名前を出さないでいいと柳田が述べている箇所があるが，その後出された③「カマキリ方言集成」でも，佐藤は既述の通り柳田の名前を出している。また，いくら柳田が名前を出すことに遠慮しても，二人の関係から実際に佐藤が柳田のデータを使用したならば柳田の名前を出さずにはいられなかったことは容易に想像できる。つまり，タイプＣに属する全国方言集では柳田のデータ引用はなく，佐藤の集めたデータを使用して方言集を編纂したものと考えられる。

これら方言集と柳田のデータ使用に関する詳細な検討は別の機会に譲るが，ここで押さえておきたいのは，タイプ別の変容である。引用のみは最後の⑮「全国堇方言集」にも見られるものの，柳田との関係性が見られるＡやＢは昭和 7 年までで，昭和 9～10 年の⑫⑬⑭は全てタイプＣである。しかも⑫「私の方言用紙」や⑬「私は数年来、全国の知友に問を発して集め、そのカードが約二千枚に達したので」などと，佐藤自身が集めたことを強調している。つまり，佐藤が柳田の力を借りずに自身で全国版方言集を作成しているのである。柳田から方言用紙を借りていた方言集から独自の方言集へ，いわば柳田からノウハウを得た佐藤は独自の道を歩んでいったのではないかと思われる。そして昭和 10 年の 2 点の方言集，⑭『現行全国妖怪辞典』⑮「全国堇方言集」を最後に，佐藤の方言集は現在のところ発見されていない。また，同じく昭和 10 年以降，方言に限らず民俗学的な事象への研究も昭和 14 年の「岡山の方言ところどころ」という小論はあるものの，本格的な報告は見つかっていない。戦後の昭和 23 年に発足した岡山民俗学会にも桂は参加したが佐藤は参加していない。つまり，昭和 10 年頃を境に民俗学の研究から植物学などの博物学の分野へ研究をシフトしていったと考えられる。

現在，佐藤清明をインターネットなどで検索すると『現行全国妖怪辞典』の著者として，民俗学の中の妖怪研究の業績が紹介される。

確かに，日本でおそらく最初の妖怪辞典の著者として評価されることは大事であるが，実はそれも佐藤の方言の研究における一環であり，佐藤が柳田から得たノウハウを使って著してきた一連の全国版方言集の一つなのである。柳田は昭和 10 年 5 月の「故郷の言葉」の中で,「是が佐藤清明君などの綿密な調査となり，方言区域論の新しい課題ともなったことは，人の熟知する所である」と述べ，佐藤の研究を評価しているが，それは妖怪辞典だけでなく，綿密な岡山や全国の方言の調査であり，方言集としての発表である。そういう意味でこれら 15 点の全国版方言集は佐藤の民俗学研究の成果としてもっともっと評価されていいものと思われる。

研究の出発点として民俗学を選んだ佐藤は，方言の収集と整理・発表という大きな足跡を残して，また自身の研究のノウハウとなる多くのものを民俗学から学んで，次の博物学へとステップアップしていったのである。

佐藤清明の研究は始まったばかりで，彼の資料は，まだ多くが未整理または未収集で，これから大きな発見の可能性がある。また，筆者が危惧していることの一つに，彼自身の考えや思いを述べた資料があまりにも少ないことがある。日記は未発見であり，彼の書いた書簡の研究もこれからであり，佐藤の生の声が伝わってこない。佐藤が何を考えていたのか，柳田や民俗学に対し何を思っていたのか，それがなかなか見えてこない。それだけに，残された資料だけでここまで述べてきたが，佐藤に問えるならば問うてみたい，どうしてもっともっと民俗学にも研究の軸足を残してくれなかったのかと。妖怪研究の先駆者として，民俗学の大先輩として，偉大な先人を思うと返す返すも残念である。

（当会 顧問）

＝ 佐藤清明資料保存会始まり物語 ＝

図書館職員小野礼子主査は、友人に紹介された「岡山の妖怪事典」(岡山文庫) の著者で岡山民俗学会理事である木下浩氏を通じて、里庄町出身の博物学者佐藤清明氏の存在とその業績について知り、その中で本邦初となる「現行全国妖怪辞典」を発行されたことに注目され、幼児から高齢者まで幅広い年齢層を対した「妖怪講座」と、佐藤清明氏の幅広い業績を町内外に紹介すべく「里庄のせいめいさん展」を開催。その過程で、佐藤家の皆様のご理解と、江田伸司様・岡本泰典様はじめ各界の関係者の皆様、佐藤清明氏のお仲間やお弟子さん方のご協力を頂き、佐藤清明氏の業績を明らかにし後世に伝えるべく、里庄町立図書館に活動拠点を置いて、「佐藤清明資料保存会」として発足する運びとなりました。

この度は、当会の立ち上げ段階からご指導ご助言を頂いておりました木下浩氏にお願いし、創刊号の巻頭を飾る玉稿をお寄せいただきました。

佐藤清明先生の想い出

理事　安原　清隆

今から４０年以上も昔のことから始まる。思い出せば、わたしには、ご指導いただいた４人の植物の先生がおられた。まず横溝熊市先生、そして、造詣が深い横溝先生をして、「この先生に見せたらわからんもん無しですからな。」と、言わしめた大久保一治先生、少し間をおいて佐藤清明先生、さらに、岡山県植物研究会会長の西原礼之助先生。

現在わたしは、７０余歳である。先生方と交流した日々のパッションは、失せてしまった。

「本村に佐藤清明先生と言われる博物学の先生が、おられますから訪ねたらよろしいな。」 横溝先生からアドバイスをいただいた。

佐藤清明先生のお宅を初めて訪ねたのが、いつ頃だったか、はっきりとは思い出せない。かれこれ４０年近い過去のこと。わたしが当時、３０歳代半ばであったとすると、清明先生は４０歳上の７０歳代半ばであっただろう。

案内されて階段を上った応接間に通された。初対面で緊張して、先生と対座している自分の姿を現在でも思い出すことができる。開けた窓から湯の池を眺望する、わたしがいた。日ごろの引っ込み思案の人間とは、別人であった。よくもまあ大胆に行動できたものだ。

先生の声は、電話口の声と同じで、ややかすれているように聞き取れた。先生は鼻筋の通った容貌の方で若い時には、さぞかし美男子だったであろうことが想像できた。奥様も見えられて挨拶してくださった。大きな目が印象的な方だった。

「安原さんは、安広におすまいですか。安原博校長は、お変わりありませんか。」先生から、こんな言葉をかけられて、はいとだけ応えたように思う。安原博氏は、わたしと同じ安広に住まれていて同じ組合だったので、顔を合わせることも多かった。博氏は、長らく県立高校校長を歴任され、県立倉敷青陵高校の校長の役職を最後に、定年退職されたと聞いていた。安広では、ひろ校長と呼ばれて尊崇されていた。清明先生とは畏友の間柄だったのだろう。

「安原さんはどんな仕事をされていますか」先生から尋ねられた。わたしは、植物とは無縁の岡山大学工学部電気電子工学科で技術職員をやっていますと答えた。門外漢のわたしだったので驚かれた。先生から、ご自身の生い立ちなど、お聞きしたかもしれないが、忘れてしまった。今、思えば佐藤先生は、わたしが、ひろ校長と同姓であることに忖度が、あったのかとも思う。

明日、佐藤せいめい先生を案内して虚空蔵山へ行くで、と母に言うと、母は、佐藤きよあき先生じゃろう、きよあき先生は生石の女学校へ通うとった頃、博物の先生じゃった、鼻が高い外人のような顔立ちの先生じゃったよと言った。

翌日、わたしの車でお宅へ先生を迎えに行って虚空蔵山へ向かった。奥様が「気を付けて行ってらっしゃい。」と赤色のレンガの門を出て見送ってくださった。門のすぐわきにキク桜があった。キク桜のことは、何度か先生のお宅へ訪れた際、お聞きしていた。先生は、青色（記憶違いかもしれない）の作業服で、どんな帽子を被られていたか思い出せないが、靴は黒いゴム長靴を履いておられた。

昭和４５年の虚空蔵山の山火事の後に整備された林道を通って、長惣中池付近の湿地へ行くことになっていた。霊山寺から少し上ったあたりで「止めてください。」と言われて先生は、車から降りられた。「昔このあたりは湿地でした。」しかし、どこを探しても湿地だ

ったことが想像できないケネザサの群落だった。

「遷移ですな。」先生は言われた。遷移の意味は、移り変わることであるが、後で調べてみると植物学では以下のような記述がある。

一定の植物群落が、それ自身の作り出す環境の推移によって他の種類へと交代し、最終的には安定した極相へと変化していくこと。現在あるケネザサ群落が、極相である。遷移ですなと言われた先生のお声と立ち姿が、よみがえる。

林道が整備されてなかった頃、わたしは大原西から参拝.道を通って登っていました、「歩いたほうが何倍も自然観察ができます。」山火事から数年経っていたのに、火事で焼けた立木が残っていて、衣服のいたるところに炭がついて汚れました、「調査で入ったある場所が山火事の痕だったので、私も炭を付けて帰ったことがあります。」と先生。

先生と目的地の長惣池（長惣中池）を周回した。イシモチソウ、モウセンゴケ、ホザキノミミカキグサ、ミミカキグサ、サギソウ、ヒナノカンザシ、イトイヌノヒゲ、ユウスゲ、イトイヌノハナヒゲ、トラノハナヒゲ、イヌノハナヒゲ、リンドウ、ヤマラッキョウなどの湿生植物について話しながら。

遊歩道からは護岸整備された池で飼われている大きな錦鯉が見えた。この池が整備される以前には、ジュンサイ、ヒツジグサ、タヌキモなどがありましたし、農業用水として池の水が利用されていたので、８月の下旬には水位が下がって、現れた陸部に、ニッポンイヌノヒゲ、シロイヌノヒゲ、ツクシクロイヌノヒゲなどのホシクサ科植物が見られました、そのつど先生は頷いて下さった。

自生園の看板が立てられている浅い小さな池がある。

「去年の暮だったか、この池の中で落ち葉や枯れ草、枯れ枝を燃やしとるということを知らせてくれた人がいて、役場へ連絡して止めさせたことがありました。」と先生が言われた。この池には、ガガブタが自生していました。

虚空蔵山を下って毛野無羅山の山麓へ向かった。

途中、跨線橋上の溝にイネ科植物が見えた。先生、ハマヒエガエリでしょうか、「ヒエガエリと見ました。」先生が応えられた。季節は５月半ば。

案内した干瓜の奥から入った毛野無羅山の山麓湿地は、昭和 40 年頃とは、すっかり変わっていた。先生、この花をつけた木はカマツカですか、「これは、タンナサワフタギです。」と先生。この谷の奥にはアカメヤナギの巨木があって樹下にはサワオグルマの群落がありました。昭和 40 年頃には、この時期、湿地の周りにはハッチョウトンボが飛び交い、孵化したばかりで鰓を持ったカスミサンショウウオが、湿地の水たまりに生息し、そして、上空には南方から渡ってきたサシバがタカ特有の羽ばたきをして舞っていましたが、最近では、サシバは、すっかり見なくなりました。「燃料を得るために手入れして利用してきた里山がプロパンガスの普及で放置されたためですな。」先生は応えられた。

「今後、証拠標本に基づいた植物目録を作ることが急がれます。」先生が言われた。５月中旬で最もフィールドで活動しやすい季節だった。標本作りのためには、採集しなくてはならないが、採集することで種を絶滅させるようなことがあってはならないと、採集のマナーについて先生は厳しく言われたように思う。

お宅へ先生をお送りした後、奥様の手料理まで、ご馳走になったことは忘れられない思い出である。

県南　里庄町の湿原フローラ

佐藤清明・安原清隆

岡山県南部の湿原として，植生上特筆すべきものには，東に鹿久居島の湿原（和気郡日生町，流紋岩台地），中央部に粒江七ノ池の湿原（倉敷市，花崗岩台地，本四連絡橋々脚予定地）等があるが，それと肩を並べて西部地域を代表する湿原フローラが里庄町にある。これは一般にはあまり知られていないので，今回はこの里庄町の湿原について述べてみたい。

浅口郡里庄町の湿原は笠岡市に接し，一部は笠岡にも跨がっていて，山陽線および国道２号線を境にして北と南の２箇所に分かれて存在する。その大要は次の通りである。

（1）虚空蔵山の湿原（更にＡ・Ｂの２区に分ける。）

山陽線里庄駅から北へ約 1,5 キロ，町内の最高峰，虚空蔵山（標高 250m）の裏（北）側にあたり，里庄町里見の大原西に属す。地質は花尚岩，ここは高地に虚空蔵尊を祀って古代信仰の聖地として地籍も里見の第１番地にあたる。地域の中心に長惣池があり，４つの小池に分かれて水を堪え，この池畔が湿地（Ａ湿地）になっている。そして更に南に延びて行くと，この続きには戦国時代の古城，鳶尾城跡がある。戦国時代に周防の大内義隆が７州に勢力を張っていた東辺の守りで，城跡の麓に小さい池を中心に湿地（Ｂ湿地）があり・もう此処は町境をふみ越えて大半は笠岡市に属する。

このＡ・Ｂ両地を通じて，おもな植物としては，トキソウ，サワキキョウ，ショウジョウバカマ等の群落,ユウスゲ,ノハナショウブ,リンドウ,センブリ,キセルアザミ,サギソウ，ヒメシロネ,ミズトンボ，オオバノトンボソウ,モウセソゴケ,イシモチソウ,ミミカキグサ，タヌキセ,ヒナノカンザシ，カキラン，オオヒキヨモギ，ケシンジュガヤ,スイラン,ウキシバ，ジュンサイ,ホソバミズヒキモ等がある。

（2）干瓜の湿原（Ｃ区）

里庄駅から東南約 1,5 キロ，県道六条院西里庄線から南へ越えたところ，茶臼山（190m）の麓にあたって，荒廃した，かなり広い草原で花崗岩質，里庄町新庄の干瓜に属す（Ｃ湿地）。

この地域に見る主要な植物としては，モウセンゴケ，イシモチソウ，　ミミカキグサ，ホザキミミカキグサ等の食虫植物を筆頭に,センブリ，アカバナ，ミズユキノシタ,キクバヒヨドリ,サワォグルマ,オオバノトンボソウ,シロバナサクラタデ, ヒカゲノカズラ,バイカイカリソウ,オオタニシダ（少し離れた地にぱヘラシダも自生）等がある。　ジュンサイ,ホソバミズヒキモ等がある。

(1)(2)ともに最近は帰化植物が侵入して来ており，メリケンカルカヤ，ベニバナボロギグ、セイタカアワダチソウ等を見かけるようになった。県道に近いＣ湿地は別として，なぜＡ・Ｂのように奥まった地域に帰化種が侵入したのか考えてみると，１０数年前の山火事にその原因があるようである．そしてまたＡ・Ｂ地域は本年（1982 年）里庄町の森林公園計画に入り,林道敷設工事が付近で行われているので、将来,植物相の変貌があるかもしれない。その基礎資料の一助ともなればさいわいである。

最後に、各地域とも動物では、ハッチョウトンボ,ゲンジボラル等が生息し,Ｃ地域では毎年、カスミサンショウウオの産卵が見うけられることを付記しておく。

里庄湿原　自生植物目録

(1) 草木植物

名称			所属	地区別		
番号	和名	学名	科名	A	B	C
1	ガマ	Typha latifolia L.	がま科	○		○
2	ホソバミズヒキモ	Potamogeton octandrus Poir.	ひるむしろ科		○	
3	ケネザサ	Pleioblastus fortunei Nak.	いね科	○	○	○
4	ツルヨシ	Phragmatis Japonica Steud.	〃			○
5	トダシバ	Arundinella hirta Tanaka	〃	○	○	○
6	ウキシバ	Pseudoraphis ukishiba Ohwi	〃		○	
7	ヌメリグサ	Sacciolepis indica Chas.	〃	○	○	
8	チゴザサ	Isachne globosa O.K.	〃	○	○	○
9	カリマガヤ	Dimeris ornithopoda Trin.	〃	○	○	○
10	ススキ	Miscanthus sinensis And.	〃	○	○	○
11	アブラススキ	Eccolopus cotulifer Cam.	〃		○	
12	ウシクサ	Andropogon brevifolius Sw.	〃			○
13	メリケンカルカヤ	Andropogon virginicus L.	〃	○	○	○
14	カモノハシ	Ischaemum aristatum L.	〃	○	○	
15	テキリスゲ	Carex kiotensis F. et S.	かやつりぐさ科	○	○	○
16	ヒメカンスゲ	Carex conica Boot.	〃	○	○	○
17	ゴウソ	Carex maximowiczii Miq.	〃	○	○	○
18	ヒカゲスゲ	Carex lanceolata Boot.	〃	○		○
19	アゼガヤツリ	Cyperus haspan L.	〃	○	○	
20	シカクイ	Eleocharis wichrae Boeck	〃			
21	ヤマイ	Fimbristylis subbispicata N. et M.	〃	○	○	○
22	テンツキ	Fimbristylis dichotoma Mak.	〃			○

名称			所属	地区別		
番号	和名	学名	科名	A	B	C
23	ノテンツキ	Fimbristylis complanata Link.	かやつりぐさ科			○
24	イヌノハナヒゲ	Rhynchospora chinensis N.et M.	〃	○	○	○
25	コイヌノハナヒゲ	Rhynchospora fujiana Mak.	〃		○	
26	ノグサ	Schoenus apogon R. et S.	〃		○	
27	ホタルイ	Scirpus juncoides Boeck	〃	○	○	
28	ヒメホタルイ	Scirpus lineolatus F. et S.	〃	○	○	
29	アブラガヤ	Scirpus wichurae Bock	〃	○	○	○
30	ケシンジュガヤ	Scleria rugosa R. BR.	〃	○	○	
31	ホシクサ	Eriocaulon sieboldtianum S. et Z.	ほしくさ科	○	○	
32	ハナビゼキショウ	Juncus alatus F. et S.	いぐさ科	○	○	○
33	コウガイゼキショウ	Juncus leschenaultii Gay.	〃	○	○	
34	イ	Juncus effusus L.	〃		○	
35	ユウスゲ	Hemerocallis vespertiana Hara	ゆり科	○	○	
36	ショウジョウバカマ	Heloniopsis orientalis Tanaka	〃	○	○	○
37	サルトリイバラ	Smilax china L.	〃	○	○	○
38	ヤマノイモ	Dioscolea japonica Thunb.	やまのいも科		○	○
39	カエデドコロ	Dioscolea quinqueloba Thunb.	〃	○	○	○
40	ノハナショウブ	Iris ensata Thunb.	あやめ科	○	○	
41	サギソウ	Habenaria radiata Sp.	らん科	○	○	
42	ミズトンボ	Habenaria sagittifera Reichb.	〃	○	○	
43	コバノトンボソウ	Platananthera tipuloides Ldb.	〃	○	○	
44	大葉トンボソウ	Platananthera minor Reichb.	〃	○	○	○
45	トキソウ	Pogonia japonica Reichb.	〃	○	○	
46	カキラン	Epipactis thunbergii A.Gray	〃	○	○	
47	ネジバナ	Spiranthes sinensis Am.	〃	○	○	○
48	ヤブマオ	Boehmeria longispica Steud	いらくさ科			○
49	シロバナサクラタデ	Polygonum japonicum Meism.	たで科			○
50	ボントクタデ	Polygonum pubescens Bl.	〃			○
51	ヤナギタデ	Polygonum hydropiper L.	〃			○
52	ハルタデ	Polygonum persicaria L.	〃			○
53	トゲソバ	Polygonum senticosum F.et S.	〃			○
54	ノミノツヅリ	Arenaria serpyllifolia L.	なでしこ科			○

名称			所属	地区別		
番号	和名	学名	科名	A	B	C
87	サワオグルマ	Senecio pieroti Miq.	きく科		○	
88	タムラソウ	Serratula insularis Il.	〃		○	
89	ベニバナホロギク	Crassocephalus crepidioides Moor	〃	○	○	○
90	キセルアザミ	Circium sieboldii Miq.	〃		○	
91	セイタカアワダチソウ	Solidago altissima L.	〃			○

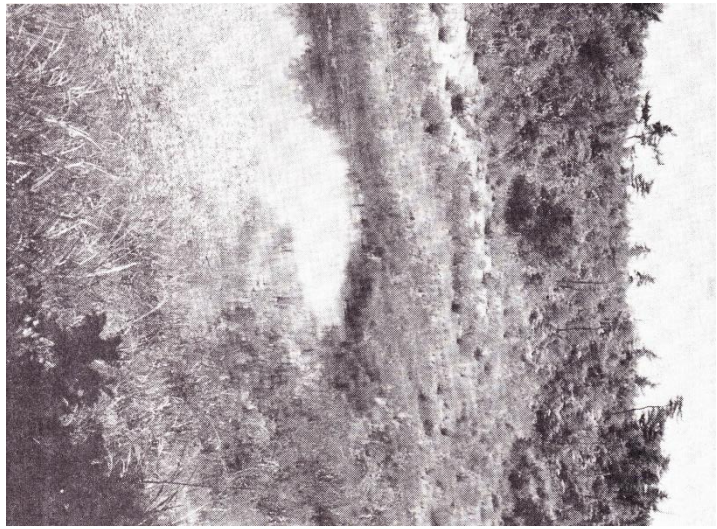
(2) 羊歯植物

92	スギナ	Equisetum arvense L.	とくさ科			○
93	ヒカゲノカズラ	Lycopodium clavatum L.	ひかげのかずら科	○	○	○
94	トウゲシバ	Lycopodium serratum Thunb.	〃			○
95	クラマゴケ	Selaginella remotifolia Sp.	いわひば科			○
96	ゼンマイ	Osmunda japonica Thunb.	ぜんまい科	○	○	○
97	カニクサ	Lygodium japonicum Sw.	かにくさ科			○
98	コシダ	Dicranopteris dichotoma Ber.	うらじろ科	○	○	○
99	ワラビ	Pteridium aquilinum Kuhn.	いのもとそう科	○	○	○
100	ホラシノブ	Sphenomeris chinensis Maxon	〃	○	○	○
101	シケシダ	Athyrium japonicum Copel.	おしだ科			○
102	ヤブソテツ	Cyrtomium fortunei Sm.	〃			○
103	ベニシダ	Dryopteris erythrosora O. K.	〃	○	○	○
104	オオベニシダ	Dryopteris hondoensia Koidz.	〃		○	○
105	ヤマイタチシダ	Dryopteris bissetiana Chr.	〃	○	○	○
106	クマワラビ	Dryopteris lacera O. K.	〃			○
107	オクマワラビ	Dryopteris unoformis Mak.	〃			○
108	ホシダ	Thelypteris acuminata Mort.	〃			○
109	ハシゴシダ	Thelypteris glanduligera Ch.	〃			○
110	ハリガネワラビ	Thelypteris japonica Ch.	〃		○	○
111	ゲジゲジシダ	Thelypteris decursivepinnata Ch.	〃			○
112	ミゾシダ	Stegognramma pozoi Iwats.	〃			○
113	シシガシラ	Struthiopteris niponica Nak.	ししがしら科	○	○	○

名称			所属	地区別		
番号	和名	学名	科名	A	B	C
55	ジュンサイ	Brasenia schreberi Gm.	すいれん科	○	○	
56	ヒツジグサ	Nymphaea tetragona Georg.	〃		○	
57	ウマノアシガタ	Ranunculus japonicum Thunb.	まんぼうげ科			○
58	タガラシ	Ranunculus sceleratus L.	〃			○
59	梅花イカリソウ	Epimedium diphyllum Lod.	めぎ科			○
60	イシモチソウ	Drosera nipponica Masam.	もうせんごけ科	○	○	○
61	モウセンゴケ	Drocera rotundifolia L.	〃	○	○	○
62	オトギリソウ	Hypericum erectum Thunb.	おとぎりそう科			○
63	ヒメオトギリ	Hypericum japonicum Thunb.	〃	○	○	○
64	ヒナノカンザシ	Salmonia oblongifolia DC.	ひめはぎ科	○	○	
65	ツボスミレ	Viola verecunda Gray	すみれ科			○
66	ヒシ	Trapa japonica Fl.	あかばな科	○	○	
67	アカバナ	Epilobium pyrricolophum F.et S.	〃			○
68	ミズユキノシタ	Ludwigia ovalis Miq.	〃			○
69	アリノトウグサ	Haloragis micrantha R.Br.	ありのとう科	○	○	○
70	コナスビ	Lysimachia japonoca Thunb.	さくらそう科			○
71	ヌマトラノオ	Lysimachia fortunei Max.	〃			○
72	リンドウ	Gentiana scabra Bge.	りんどう科	○	○	
73	センブリ	Swertia japonica Mak.	〃	○	○	○
74	ガガイモ	Metaplexis japonica Mak.	あかね科			○
75	ヒメシロネ	Lycopus maakianus Mak.	しそ科	○	○	
76	ハシカグサ	Hedyotis lindleyana Hook	あかね科			○
77	オオヒキコモギ	Siphonostegia laeta Moor	ごまのはぐさ科		○	
78	キクモ	Limnophila sessiliflora Bl.	〃		○	
79	サワトウガラシ	Deinstema violaceum Mak.	〃	○	○	
80	ミミカキグサ	Utricularia nipponica Mak.	たぬきも科	○	○	
81	ホザキミミガキグサ	Utricularia racemosa Wall	〃	○	○	○
82	タヌキモ	Utricularia japonica Mak.	〃		○	
83	サワギキョウ	Lobelia sessilifolia Lam.	ききょう科	○	○	
84	キクバヒヨドリ	Eupatrium chinense L.	きく科			○
85	サワヒヨドリ	Eupatrium lindleyanum DC.	〃	○	○	○
86	スイラン	Hololeion Krameri Kitam.	〃			○

(3) 木本植物

名称			所属	地区別		
番号	和名	学名	科名	A	B	C
114	アカマツ	Pinus densiflora S. rt Z.	まつ科	○	○	○
115	クロマツ	Pinus thunbergii Parl.	〃	○	○	○
116	ネズズ	Juniperus rigida S. et Z.	ひのき科	○	○	○
117	アカメヤナギ	Salix chaenomeloides Kim.	やなぎ科			○
118	アラカシ	Quercus glauca Thunb.	ぶな科	○		○
119	アベマキ	Quercus variabilis Bl.	〃			○
120	アケビ	Akebia quinata Dec.	あけび科	○		○
121	アオツヅラフジ	Cocculus trilobus DC.	つづらふじ科	○	○	○
122	クスノキ	Cinnamomum camphora Sieb.	くすのき科	○		○
123	テリハノイバラ	Rosa wichurae Crep.	ばら科	○	○	○
124	イヌザンショウ	Fagara mantchurica Honda	みかん科	○		
125	ヤマウルシ	Rhus trychocarpa Miq.	うるし科	○	○	○
126	ナナミノキ	Ilex sinensis Sims	もちのき科	○		○
127	イヌツゲ	Ilex crenata Thunb.	〃	○	○	
128	エビズル	Vitis ficifolia Bge.	ぶどう科	○		○
129	ヒサカキ	Eurya japonica Thunb.	つばき科	○	○	○
130	タラノキ	Aralia clata Seam.	うこぎ科	○	○	○
131	ネジキ	Lyonia ovalifolia Dr.	つつじ科	○	○	○
132	コバノミツバツツジ	Rhododendron reticulatum Don.	〃	○	○	○
133	ナツハゼ	Vaccinium oldhami Miq.	〃	○	○	○
134	シヤシヤンボ	Vaccinium bracteatum Thunb.	〃	○	○	○
135	タンナサワフタギ	Symplocus coreana Ohwi	はいのき科			○
136	マルバアオダモ	Fraxinus sieboldiana Bl.	もくせい科	○		○
137	コツクバネウツギ	Abelia serrata S. et Z.	すいかずら科	○	○	○



<湿原フローラ・2018年の現況>

この記事が掲載された岡山植物研究会誌第1号は、1982年3月に刊行されているので30数年前の里庄の湿原の様子を記録した貴重な資料である。

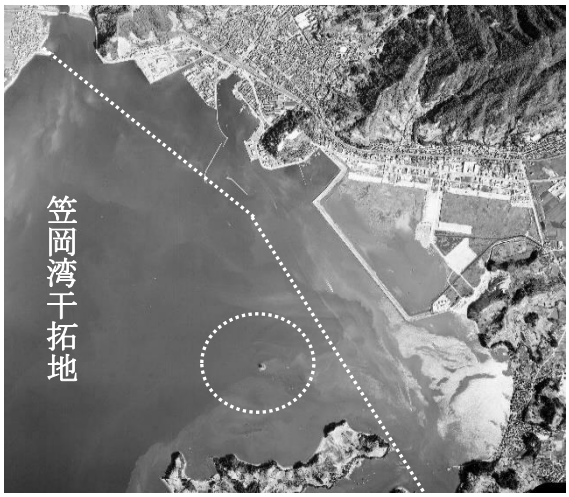
記事中のA地点(左の写真の長惣池一帯)は現在、「里庄美しい森」の域内にあり、宿泊施設やキャンプ場として整備され、生態系も大きく変わっている。B地点は、A地点の西下にある池の傍に位置するが、大半が笠岡市域で、里庄から笠岡に抜ける林道の整備にともない、A地点以上に環境が大きく変わってしまった。C地点は、太平洋戦争中に食糧増産を目的にして着工されるも、工事半ばで終戦となり、未完成に終わった干瓜地内の昭和池の堤防下の辺りの湿地。先年発掘調査が行われた「マキサヤ遺跡」の東に位置する。

3地点ともその後の植生調査は行われていない。なお、A地点は、台風による道路決壊のため、アクセスは、鳶尾城跡駐車場まで。

佐藤清明交遊録　第１話

かくして木之子島は残った・・・佐藤清明と高橋小太郎氏の物語

かつて笠岡の海岸に立つと、沖から順に大・中・小の島が重なり、美しい絵のような風景が展開していた。大は神島、 中は片島、 小は木之子島である。その木之子島、周囲 160M ほどの小島で、持ち主は神島の網元佐藤種吉だったが、海辺で戯れる千鳥の群れと 2km ほどの沖合に浮かぶ小さな島の風景は、地域に住む者たち皆のふるさとの風景だった。



1966 年 9 月 国土地理院撮影（画像使用届出済）

木之子島は無人島で、砂浜にはカブトガニが繁殖し、茂みの植生は豊かで夜光タケが生えていた。この小さな島にとりつかれた一人の少年がいた。学業の傍ら、友と木之子島に渡り、カブトガニ・キノコ・草木・昆虫・海生物の観察に夢中だった。

そんなある日、少年は、木之子島の持ち主佐藤種吉と出会う。種吉は、そのとき 10 歳の小太郎少年に島を 3000 円で譲る約束をする。後に少年は長じて 38 歳。種吉は旅立ち、島は福山に住む姪の所有となっていたが、種吉は小太郎の約束を遺言しており、約束の 3000 円で購入、昭和 18 年、夢の島は小太郎の島となった。

＜佐藤清明との出会い＞

小林小太郎は、生後 7 ヶ月で父が死亡。母方の叔母に育てられる。高橋家の養子となり，金浦尋常小学校で学び笠岡商業学校に進学する。小太郎の才を認めた校長の計らいで特待生として金光中学校に転学。そこで、すでに卒業していた佐藤清明の存在を知る。ここでも小太郎の才は認められ、佐藤金造校長の配慮で東京帝国大学五島博士の書生として上京。帝大進学への道筋ができ、博士に心のふるさと木之子島のカブトガニの生態を伝え、博士をカブトガニの住む木之子島に案内するなど順調に歩み始めたが、色覚異常がある事が分かり生物学を志す身に暗雲が湧く。さらに結核を患い帰郷。

その頃、ラジオでカブトガニの話をすることになった佐藤清明から協力要請があり、それを機に生物研究を通じて生涯の盟友となるが，小太郎はビジネスの世界に生きることにし、大阪へ出て、鉄鋼関係を業とする小林小太郎商店を興す。佐藤清明氏は小太郎の家を拠点に、田辺市の南方熊楠と田辺市で植物採集し、小太郎も時々同行し熊楠とも会っている。帝大への進学を諦めた小太郎だがカブトガニの研究は続け、佐藤との交流が途切れることはなかった。

＜その後の木之子島＞

国営笠岡湾干拓が始まり、農政局から干拓水域にあった木之子島の譲渡依頼が来る。小太郎は自然保護の観点から木之子島の保存を訴えていくが、事務官来訪し最後通告がなされるも、「補償は不要、島を残して欲しい。」と懇願。五島家の尽力も有り、紆余曲折をへて木之子島は残り、一面に広がる蔬菜の圃場や大規模な花卉園芸の施設に囲まれて往時の姿を伝えている。

佐藤清明資料保存会規約

（目　的）
第１条　この会は、佐藤清明（さとうきよあき）の業績を顕彰し、資料の収集、整備、保存、活用をするとともに、次代を担う青少年の健全な育成や地域文化活動、教育事業を推進することを目的とする。

（名称及び事務局）
第２条　この会は、佐藤清明（さとうきよあき）資料保存会と称する。

（事　業）
第３条　この会は、第１条の目的を達成するために、次の事業を行う。
１　佐藤清明ゆかりの資料の収集、整備、保存、活用に関すること。
２　佐藤清明顕彰のための諸行事の開催に関すること。
３　佐藤清明等郷土の先人に関する調査・研究及び資料の収集、整備、保存、活用に関すること。
４　青少年健全育成活動、地域文化活動、教育事業等の奨励及び顕彰に関すること。
５　郷土の先人に関わる学習会、作品展等の開催に関すること。
６　その他目的達成のために必要な事業。

（部　会）
第４条　この会は、第１条の目的を達成するため、専門部会を置くことができる。
１　清明（せいめい）研究会
２　清明（せいめい）を読む会
３　その他

（会　員）
第５条　会員は、この会の目的に賛同した次の者をもって構成する。
（１）　正会員
（２）　賛助会員

（入会及び退会）
第６条　この会へ加入しようとする者は、別に定める入会申込書を会長に提出しなけなければならない。
２　会員が退会しようとするときは、その旨を会長に届け出るものとる。

（会　費）
第７条　年会費は一口１，０００円とし、会員は一口以上を納入しなければならない。

（役　員）
第８条　この会に、次の役員を置く。
会　長　　１名
副会長　　若干名
理　事　　若干名
監　事　　２名

（選　任）
第９条　理事及び監事は、総会において選任する。
２　会長及び副会長は、理事の互選により選任する。
３　理事、監事は、相互に兼ねることはできない。

（職　務）
第 10 条　会長は、この会を代表し、会務を統轄するほか、会議の議長となる。副会長は、会長を補佐し、会長に事故ある時は、あらかじめ会長が指定した副会長がその職務を代理する。
２　理事は、理事会を構成し、会務を処理する。
３　監事は、会務を監査する。

（任　期）
第 11 条　役員の任期は２年とする。但し、補欠の役員の任期は、前任者の残任期間とする。
２　役員は、再任することができる。
３　役員は、その任期が完了したあとにおいても、後任者が就任するまでは、その任務を行う。

（顧　問）
第 12 条　この会に顧問を置くことができる。
２　顧問は、理事会の議を経て会長が委嘱する。
３　顧問は、理事会及び総会に出席して意見を述べることができる。

（会　議）
第 13 条　この会の会議は、総会及び理事会とし、総会は、通常総会と臨時総会とする。
2　通常総会は、毎年１回開催するものとし、臨時総会は理事会が必要と認めたときに開催する。
3　会議は、会長が招集する。

（構　成）
第 14 条　総会は、正会員及び賛助会員をもって構成する。
2　理事会は、正副会長及び理事をもって構成する。なお、監事は、求めに応じて理事会に出席して意見を述べることができる。

（権　能）
第 15 条　総会は、次の事項を議決する。
（１）事業計画及び収支予算
（２）事業報告及び収支決算
（３）規約の改廃
（４）役員の選任
（５）その他本会の運営に関する重要な事項
2　理事会は、次の事項を議決する。
（１）総会の議決した事項の執行
（２）総会に付議すべき事項
（３）その他総会の議決を要しない会務の執行に関すること

（議　決）
第 16 条　総会は、出席会員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

（経　費）
第 17 条　この会の経費は、会費、寄付金、その他をもって充てる。

（基　金）
第 18 条　特別な事業を推進するために、この会に基金等を設けることができる。

（会計年度）
第 19 条　この会の会計年度は、毎年４月１日に始まり、翌年３月３１日をもって終わる。

（事務局）
第 20 条　この会に事務局を置く。事務局は、当分の間、里庄町立図書館内に置く。
2　事務局長は、理事の中から会長が任命する。
3　事務局に関し必要な事項は、会長が別に定める。

（解　散）
第 21 条　この会の解散は、総会の決議による。

付　則
1　この規約は、平成 30 年 6 月 24 日より施行する。

佐藤清明資料保存会役員等名簿（順不同・敬称略）

会　長　里庄町長
副会長　教育長・生宗脩一・図書館長
理　事　教育委員会担当者・小野 礼子・佐藤 健治・佐藤 泰徳・高橋 達雄・才野 基彰・徳山　容・安原 清隆・伊藤 智行
監　事　杉井 睦保・西崎 康男

顧 問
江田　伸司（倉敷市立自然史博物館 学芸員）
佐藤　美清（親族）
土岐　隆信（株式会社エバルス）
木下　　浩（岡山民俗学会　理事）
岡本　泰典（倉敷市立自然史博物館友の会会員）
稲田多佳子（備中県民局）

平成 30 年度佐藤清明資料保存会事業計画

４月２８日㈯
　第１回 清明を読む会 「キクザクラを見に行こう」　　里庄町立図書館・佐藤邸
６月２４日㈰10：00～
　佐藤清明資料保存会 設立総会　　里庄町立図書館
７月１日～８月３０日
　第２回 企画展「さとしょうのせいめいさん展」　　里庄町立図書館
８月９日㈭14：00～15：30
　第２回 妖怪講座 「自分だけのミステリースポット地図を作ろう！」
　講師 木下 浩 氏　対象：小学生　　里庄町立図書館
８月１８日㈯13：00～14：00
　第２回 清明を読む会 「佐藤清明と民俗学 」
　講師 木下 浩 氏　　里庄町立図書館
９月２日㈰～２９日㈯
　巡回展　「清明さんを知ってますか？」　　金光図書館
１０月３日㈬～１９日㈮
　巡回展　「清明さんを知ってますか？」　　笠岡市立図書館
１１月１日㈭～２９日㈭
　巡回展　「清明さんを知ってますか？」　　浅口市公民館
１０月２０日(土)
　第３回 清明を読む会　「佐藤清明と牧野富太郎」
　講師 岡本 泰典 氏　　里庄町立図書館
１２月８日（土）
　第４回 清明を読む会　「清明さんの思い出」
　講師 渡辺 義行 氏　　里庄町立図書館
２月１６日（土）
　第５回 清明を読む会　「佐藤清明と難波早苗」
　講師 稲田 多佳子 氏　　里庄町立図書館

理事会	随時
佐藤清明の作品収集・資料の調査研究等	毎月１回 ＋ 随時
清明を読む会	年５回程度
清明研究会	毎月１回
会報の発行	年２回程度

キクザクラ基金の開設とキクザクラの樹勢回復処置の実施

平成３０年７月　　日

各　　位

佐藤清明資料保存会

佐藤清明資料保存会「キクザクラ基金」への協賛金のお願い

拝啓　時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は、佐藤清明資料保存会の運営に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、佐藤清明資料保存会では、樹木医に依頼し佐藤清明ゆかりのキクザクラの樹勢回復処置を計画しています。そのために「キクザクラ基金」として資金を集めたいと考えています。趣旨に賛同いただきまして、協賛金を賜りたく、お願い申し上げる次第です。

なお、「キクザクラ基金」の内容は、下記のとおりですので、何とぞよろしくお願い申し上げます。

敬具

記

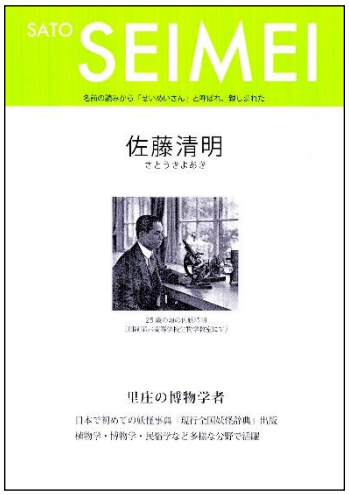
１　名　　称　　「キクザクラ基金」
２　目　　的　　佐藤清明ゆかりのキクザクの樹勢回復のための活動資金
３　協賛金額　　一口　１，０００円　（何口でも可）
４　問合せ先　　佐藤清明資料保存会事務局
　　里庄町立図書館
　　ＴＥＬ（０８６５）６４－６０１６

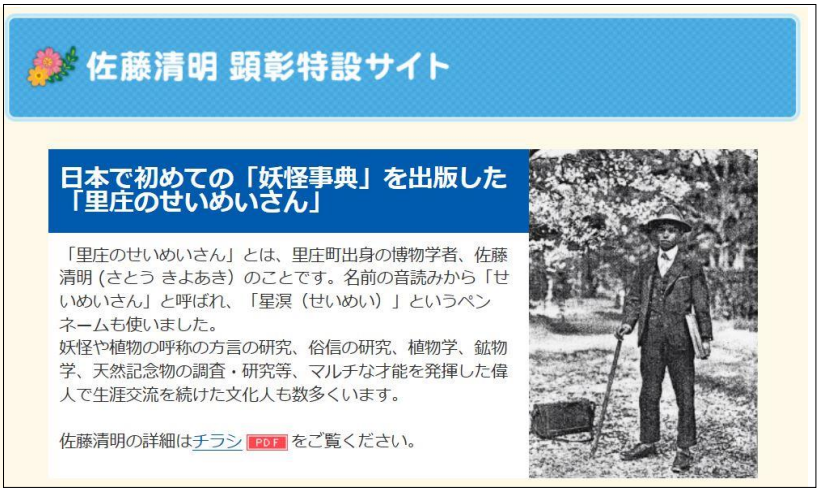
岡山大学本部構内のキクザクラの樹勢回復処置（2018.7.9.）

1979.3.17.の移植以来、十分な手入れが為されていなかった為、成長も悪く主枝が枯れていた。薬剤・バーナー・コーキング材で病害虫の手当てをし、オーガーによる爆風で土壌を耕し、乾燥剤を入れる。ドリルで数 10 個の穴を開け施肥。根元を中心に一面に木炭を敷き詰め通気通水性の防草シートを敷く。当面は、経過観察の予定。

佐藤清明顕彰特設サイト・佐藤清明巡回展の開催等

１．リーフレットの作成 と 佐藤清明顕彰特設サイトの開設





佐藤清明について、まず生誕地である里庄町内で知っていただくことを目的にリーフレット SEIMEI を制作し町内全戸配布いたしました。また里庄町立図書館ホームページ内に特設したサイトを通して、佐藤清明に関する情報と保存会の活動の様子を発信して参ります。

２．巡回展「清明さんを知ってますか？」の開催

（ 写真は金光会場：金光図書館）

図書館と共同開催した企画展「第２回・さとしょうのせいめいさん展」（7/1～8/30）の展示内容をベースに、浅口市と笠岡市の３会場で、巡回展を開催いたします。

展示内容は、開催地と佐藤清明とのゆかりや、新発見資料による知見を加えて、会場ごとに若干異なります。

金光図書館	9/2 ㈰	～	29 ㈯
笠岡市立図書館	10/3 ㈬	～	19 ㈮
浅口中央公民館	11/1 ㈭	～	29 ㈭

＜編集後記＞

会報第 1 号をお届けいたします。当会顧問木下浩氏から今後の指針となる玉稿を頂きました。若き日に佐藤清明氏と里庄の湿原フローラを調査された安原清隆氏は、当時の想い出を綴って下さいました。安原氏が先生をご案内された湿原の植生については、先生との連名記事が岡山県植物研究会誌第１号に掲載されておりましたので、アーカイブスとして再録させていただきました。

つい先日、当会顧問木下浩氏が、佐藤清明氏執筆のハンザキにかかわる資料ほか２点、同じく顧問岡本泰典氏が、金浦町で開催され佐藤清明と高橋小太郎氏がともに参加した岡山博物同好会の第 10 回例会の予告記事を載せた「内海新聞」（昭和 22 年８月１日）ほか２点、いずれの資料も古書店で発掘されました。ご紹介いただける日を楽しみにしております。

創刊準備号に続いて会報担当を仰せつかりました。号を重ねるごとに貴重な資料の蓄積が進むことを励みに、微力を尽くしたく存じますのでよろしくお願いいたします。(理事 佐藤泰徳)

佐藤清明顕彰特設サイト

佐藤清明資料保存会会報　No. 1 （創刊号）
発行日　平成 30 年 10 月 14 日
発行者　佐藤清明資料保存会・里庄町立図書館
会長　加藤泰久(里庄町長)　　館長 中尾茂男
住　所　719-0301 岡山県浅口郡里庄町里見 2621
電　話　0865－64－6016